

宇治(菟道)を歩く 1

2021.11.07

京阪宇治線 三室戸駅 集合 線路沿いにあるくとすぐに



宇治墓陪塚 ⇒ 参道 ⇒ 菟道稚郎子尊宇治墓 と続きます

菟道の山の上に葬りまつた (日本書紀)

菟道稚郎子の墓はどこか？ 3世紀の陵墓の形態 正面から見ると、木々が生い茂り小高い山のように見えないが、頻繫に、氾濫を繰り返す宇治川の近くにある事でその後の16世紀の太閤堤の遺構が見つかり、当時の地面の高さも考慮して、3世紀には、山の上に葬りまつたと詠まれるにふさわしい状態でなかったか？



右の空撮写真を参考にすると、中央の地肌の写真が、太閤堤、左側の木々の茂った所が宇治墓陵です
太閤堤も現在の地表よりかなり低い

宇治川太閤堤跡

豊臣秀吉は永禄3年 伏見城築城を機に同城南方を流れる宇治川の流路変更を伴う大規模な治水工事を諸大名に命じ、実施された、堤防の総称、2007年発掘された。



太閤堤跡から、京阪宇治駅前を横切り、彼方神社 ⇒ 東屋観音 ⇒ 宇治橋 ⇒ 宇治神社

源氏物語宇治十帖 椎本 東屋

八宮は薫に、姫たちの行く末を頼み亡くなります。薫、大君、匂宮、中君それぞれの思いが描かれている



彼方神社

東屋観音

御祭神は大物主命、
椎本之古墳

薫は浮舟消息を聞いて引き取って宇治に移す、東屋の古蹟

額田王 1・七
仮り廬し思ほゆ
宿れりし宇治の都の
秋の野のみ草刈り暮き

宇治神社

御祭神 菟道稚郎子
菟道稚郎子の宮居跡と
伝えられている

宇治(菟道)を歩く 2

2021.11.07

宇治上神社 ⇒ 早蕨・総角古跡 ⇒ 大吉山 (仏徳山) 展望台



仁徳天皇	応神天皇	菟道稚郎子	御祭神	国宝	本殿
------	------	-------	-----	----	----



桐原水

宇治上神社
応神天皇の離宮があったとされてる、菟道稚郎子の死後、祠を立て弔ったのが始まり、平等院が創建され鎮守社の役割も担う



早蕨の古跡



総角の古跡

源氏物語の碑などをすぎていよいよ、大吉山の登ります標高 132mの山です



八の宮の1周忌、薫の大君への想い中君と匂宮、匂宮が途絶え、大君の死

そんなに急な坂道ではありませんが、高齢な私は、ゆっくり進みます。



見 け む	孀 松 の 木 は 古 人	嶺 に 茂 り 立 つ	妹 ら が り 今 木 の
-------------	---------------------------------	----------------------------	---------------------------------

この歌は
菟道稚郎子の
宮所で歌われたもの

大吉山 (仏徳山) 展望台から、平等院を望む

宇治(菟道)を歩く 3

2011.11.07

大吉山展台⇒ 朝日山 124m⇒朝日山観音⇒菟道椎郎子墓⇒下山

菟道椎郎子墓みちしるべ



左折



大吉山から歩いていくと急で足場が悪い道に苦戦しながら朝日山観音のお堂にたどり着いた、少し離れた場所にぽつんと菟道椎郎子の墓はありました。



朝日山観音

大吉山から峰伝いに朝日山に向かう



仏徳山

朝日山

菟道椎郎子の墓はどっち

日本書紀で「菟道の山上に葬った」といてありこの記述に基づき

享保 18 年にこれが建立されたが、御陵や御墓にあたいする古墳が見つかっていない

菟道椎郎子の墓



塔の島から、仏徳山朝日山をのぞむ



ものふの八十うじ川の
網代木にいざよう
波の行くえしらずも
柿本人麻呂



弘安 7 年 (1284) 宇治橋架け替えの際に叡尊が建立、洪水のため倒壊修復をくりかえし宝暦 6 年 (1750) に倒壊明治 40 年 (1907) に発掘された



平等院多宝塔跡、鳳凰堂より少し離れた場所にあり、当時に平等院の大きさを想像できます



ちはや人宇治川
波を清みかも旅
行く人の立ちがて
にする
作者未詳



宇治川は淀瀬無からし網
代人舟呼ばふ聲をち
こち聞ゆ
作者未詳

宇治川岸⇒塔の島⇒柿本人麻呂歌碑⇒十三重石塔

⇒平等院多宝塔跡⇒宇治橋

